



え と 文

え・加 藤 延 雄

文・久 永 省 一

故加藤延雄先生と

「花」

先生が残されたスケッチブックが数冊ある。それには旅行先の風景、年賀状の下絵である十二支の動物、そして花の数々が描かれている、その中で特に光るのは花の絵である。先生は花が好きだった。晩年は花の探勝を楽しまれた。梅、牡丹、石楠花、あやめ、椿、水芭蕉など。私は加藤家に残る夥しい数の未整理の写真の中の大切なものを二〇冊のアルバムに整理した。そして二、三ページに一枚、先生が撮られたカラーの花の写真飾りとして挿入した。しかし白黒の花の写真もたくさん残っている。私は美しい花を白黒で撮るのは無意味だとはじめは思った。しかし遺稿集の中の「心の花」をノートでよんで、その意味が分った。先生にとって「花」は生きとし生けるものの代表であったのだ。もっとも美しい神の贈物だったのである。先生はその無色の写真の中に鮮やかな色を見ていられたのだった。